第4課　旧約聖書における正義と憐れみ（その２）

【暗唱聖句】

「川が流れて行く所ではどこでも、群がるすべての生き物は生き返り、魚も非常に多くなる。この水が流れる所では、水がきれいになるからである。この川が流れる所では、すべてのものが生き返る。」エゼキエル47:9

【今週のテーマ】

今週は、神の愛のご品性をこの世にあらわしなさい、と神の民に呼びかける旧約聖書の声に耳を傾けます。

【日曜日　キリストにあって生きる】

＊ポイント…神様は霊的に死んでしまったような人を生き返らせることができます。これをリバイバルといいます。リバイバルのポイントはみ言葉と聖霊です。

＊ディスカッション…「キリストの命に生き生きと輝いて生きる人生をどう思いますか」

「主はわたしに、その周囲を行き巡らせた。見ると、谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それらは甚だしく枯れていた」エゼキエル37:2

骨は霊的に死んだようになっているイスラエルの民を現しています。しかもただの骨ではなく、甚だしく枯れてしまった骨として描かれています。神様から遠く離れた状態というのは、神様の目からみれば、命が枯れはて死んでしまったかのように映っているということです。

「そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」エゼキエル37:3

このような枯れ果てた骨が果たして生き返ることができるのでしょうか。もし、生き返ることができるとするならば、それをリバイバルと言うのです。そして、それは神様のみ手の業によって可能です。

「そこで、主はわたしに言われた。「これらの骨に向かって預言し、彼らに言いなさい。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る」エゼキエル37:4、5

死んで枯れてしまったような人が生き返るために大切なポイントは、「主の言葉を聞く」こと、そして、「神の霊を吹き込まれる」ことです。そうすれば必ず生き返ります。主こそ神であることを実感するようになります。霊的な命にとってみ言葉と聖霊の油注ぎがいかに重要か、改めて思い知らされます。また、「霊が吹き込まれる」の「霊」は「ルーアッハ」という言葉で、天地創造において、神様が息を吹き入れられて人が生きるものとなったという「息」と同じ言葉です。

「主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息（ルーアッハ）を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」。創世記2:7

もともと生きるものとなるために吹き入れられた神の息、霊が失われてしまったとき、もう一度同じ息（霊）が吹き入れられる必要があるということです。神様のご計画は、イスラエルの民が霊的に生き返り、神様の栄光を証する大きな集団となることでした。そのためにみ言葉に立ち返り、聖霊を受ける必要がありました。

「わたしは命じられたように預言した。すると、霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で立った。彼らは非常に大きな集団となった。」エゼキエル37:10

地域社会に奉仕するとき、わたしたちは霊的命に溢れるものとしてその働きを行っていくのです。

「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」エペソ2:10

善い行いは救いとは全く関係がありませんが、信仰の実として善い行いは付随するものであり、またそのような善い技のためにわたしたちは造られているのです。

【月曜日　流れる川】

＊ポイント…エゼキエルが見た神殿から流れる川がその周辺を潤し、命に生き返らせ幻は、現代の教会も同様の力と使命があることを現しています。

＊ディスカッション…「教会は命の川の水の源でなければなりません。どうすればそのようになると思いますか」

「彼はわたしを神殿の入り口に連れ戻した。すると見よ、水が神殿の敷居の下から湧き上がって、東の方へ流れていた」エゼキエル47:1

エゼキエルはバビロンに捕囚として連行され、他の捕囚たちと共にケバル川の河畔に住んでいました。そのとき突如主が幻のうちに臨み、なぜ、北イスラエルや南のユダが偶像の国によって滅ぼされてしまったのかを示されます。そして、やがて不思議な幻を見せられるのです。それは美しい神殿の幻でした。神殿はバビロンによって崩壊していましたが、幻の中では傷一つない美しく壮麗な神殿が立っており、神殿の敷居の下から水が湧き上がって、東の方へ流れているのを見ます。その水は最初は浅かったのですが、やがて川となり、死海に向かってどんどん深く、大きくなっていきます。そして、エゼキエルは、さらに不思議な光景を目にし、また不思議な声を耳にします。

「わたしが戻って来ると、川岸には、こちら側にもあちら側にも、非常に多くの木が生えていた。47:8 彼はわたしに言った。「これらの水は東の地域へ流れ、アラバに下り、海、すなわち汚れた海に入って行く。すると、その水はきれいになる。 47:9 川が流れて行く所ではどこでも、群がるすべての生き物は生き返り、魚も非常に多くなる。この水が流れる所では、水がきれいになるからである。この川が流れる所では、すべてのものが生き返る」エゼキエル47:7～9

これは実際の神殿ではありませんでしたが、神の体である教会や聖霊の宮としてのクリスチャン一人ひとりを象徴しているかのようにも思えます。教会は人々を生き返らせる働きがあるということです。最初は小さな働きでも、やがて大河のような大きな働きとなっていくことでしょう。また、個人個人も、イエス様から「生ける水」をいただき、それが川のようになって流れ出る経験へと導かれることによって、周りの人々を潤していくのです。

問１

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」マタイ5:16

わたしたちの行いを通して、天の父があがめられるようになることが神様の御心です。イエス様は「わたしは世の光である」と言われました。だからイエス様を内に宿すことによって、わたしたちも世に光を掲げることができるようになります。具体的にはそれは行いや態度、言葉を通して現されていきます。

【火曜日　教会―命の源】

＊ポイント…教会には人を生き返らせる命があります。望みのない人、救いようのない人などいません。

＊ディスカッション…「どんな人でもキリストの命に生き返ることができるとの約束と、その使命を教会（信徒）が持っているということをどう思いますか」

「川が流れて行く所ではどこでも、群がるすべての生き物は生き返り、魚も非常に多くなる。この水が流れる所では、水がきれいになるからである。この川が流れる所では、すべてのものが生き返る」エゼキエル47:9

エゼキエルは川には命があることを預言しています。ポイントは、死んだような者の命が生き返ること、その数が増えることです。神殿の外は砂漠で、木々など生い茂られないような場所、海は死海で魚が生息しないような場所なのに、命を生き返らせ、さらにまた新たな命をも生みだしていく。これは「その水が流れる場所では、水がきれいになるからである」と言います。つまり、霊的に汚れていた環境がきれいになるからです。その命の水の源こそ教会だと預言しているのです。

「神が働いておられる場所には、望みのない状況、救いようのない人々というものはない。また、わたしたちに絶望的な未来を宣告せざるを得ない不幸な過去からの遺産も存在しない」ガイドP28

また、黙示録に描かれた新天新地の光景も、エゼキエルが見た幻と似ています。

「川のほとり、その岸には、こちら側にもあちら側にも、あらゆる果樹が大きくなり、葉は枯れず、果実は絶えることなく、月ごとに実をつける。水が聖所から流れ出るからである。その果実は食用となり、葉は薬用となる。」エゼキエル47:12

「天使はまた、神と小羊の玉座から流れ出て、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた。 川は、都の大通りの中央を流れ、その両岸には命の木があって、年に十二回実を結び、毎月実をみのらせる。そして、その木の葉は諸国の民の病を治す」黙示録22:1，2

このことから、神殿（教会）から流れ出る水は、神のもとから流れ出てくる命の水の川のことであり、それは新天新地において完全な形で表されることがわかります。しかし、それは未来だけの話ではなく、いまもすでに、教会はその働きのために存在しているのです。

【水曜日　ヨベルの年の約束】

＊ポイント…奴隷からの解放を告げるヨベルの年。教会にはまさに人々を罪の奴隷、この世の束縛からの解放を告げる働きがあります。

＊ディスカッション…「油（聖霊）注がれた者が、捕らわれている人を解放させることができるとのみ言葉に対して、どう思いますか」

ヨベルの年とは、７年目の安息年の「７」を、7倍した４９年目の翌年を、ヨベルの年として、負債のために債権者の手に渡っていた土地がすべて元の所有者に戻され、負債のゆえに債権者のもとでの労働を余儀なくされていた人々が元の所有地に戻ることが許されるという規定です。ヨベルとはその解放を告げるために吹かれた角笛を意味し、その角笛の音とともに、それまで先祖伝来の所有地を失っていた人々が元の所有地に帰れたということでしょう。しかし、残念ながら、私たちは、旧約聖書の歴史記録であるサムエル記や列王記などの書物や、預言書に、そのヨベルの年の解放制度が実際に実施されたという記録を見出すことはできません。

「61:1 主はわたしに油を注ぎ／主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして／貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み／捕らわれ人には自由を／つながれている人には解放を告知させるために。61:2 主が恵みをお与えになる年／わたしたちの神が報復される日を告知して／嘆いている人々を慰め 61:3 シオンのゆえに嘆いている人々に／灰に代えて冠をかぶらせ／嘆きに代えて喜びの香油を／暗い心に代えて賛美の衣をまとわせるために。彼らは主が輝きを現すために植えられた／正義の樫の木と呼ばれる。61:4 彼らはとこしえの廃虚を建て直し／古い荒廃の跡を興す。廃虚の町々、代々の荒廃の跡を新しくする。61:5 他国の人々が立ってあなたたちのために羊を飼い／異邦の人々があなたたちの畑を耕し／ぶどう畑の手入れをする。 61:6 あなたたちは主の祭司と呼ばれ／わたしたちの神に仕える者とされ／国々の富を享受し／彼らの栄光を自分のものとする。」イザヤ61:1～6

イザヤ書61章にはヨベルの年に関わる預言が記されています。油注がれ主の霊に導かれた者が、貧しい人に解放を告げると、嘆いていた人たちは慰められ、やがて廃虚を建て直し、古い荒廃の跡を興すような社会の変革者に変えられ、主の祭司と呼ばれるようになっていきます。

同様に、教会は主に霊に導かれて世に救いの喜びを告げ知らせます。すると、福音を聞いて救われたものたちは喜んで自分たちも福音を伝えるものとなり、町をも変える力となっていきます。

【木曜日　教会―変化をもたらす主体】

＊ポイント…教会は愛が実践される場所でなければなりません。

＊ディスカッション…「愛に乏しく、形式にとらわれやすいのはなぜだと思いますか」

「人よ、何が善であり／主が何をお前に求めておられるかは／お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである。」ミカ6:8

「善」という言葉は、創世記1章に繰り返し出てくる被造物を見て神様が「良し」と言われた言葉と同じです。つまり、神が求めておられる「善」とはもともと人間がなすように神様が計画されたことであることを、それとはなく示しています。形式的な宗教に陥り、実のない、つまりキリストの愛が現されないとするなら、それは方向が間違っていることに気が付く必要があります。神がわたしたちに求められるのは、正義を行うこと、慈しみを愛すること、へりくだって神と歩むことです。

「真の宗教は実際的である。確かに宗教には教会の習慣や儀式が含まれるが…断食をすることは飢えている者に食べ物を与えることほどには重要ではない。実際的な信心深さだけが、神の裁きの法定において評価される唯一の宗教である」（SAD聖書注解書・EGW）